



トップメッセージ

## 未来志向の「環境経営」

地球温暖化の進行や生物多様性の危機など、地球環境を取り巻く状況は、その深刻の度を一段と深めております。このような状況のもと当行は、琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的責任(CSR)として、経営に環境を取り込んだ「環境経営」と、金融に環境を組み込んだ「環境金融」を实践、多面的な活動を展開してまいりました。

本年は、COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)が10月、「ポスト京都議定書」に向けたCOP16(気候変動枠組条約第16回締約国会議)が11月にそれぞれ開催予定で、気候変動や生物多様性など人類共通の課題は大きなターニングポイントを迎える年と考えます。そして両会議の開催は、私たち一人ひとりに環境意識の一層の高揚とともに、「自然からの恩恵はタダ」とする旧来の発想の見直しを鋭く迫ってくることでしょう。

当行は今日まで、本業の「金融」の使命と役割を十分に認識しながら、「環境対応型金融商品・サービス」や「生物多様性保全に資する商品」の開発・提供などの「環境金融」の实践に努めてまいりました。

具体的には、地域との連携を念頭に、未来を担う子どもたちのための「学校ビオトープ(生き物が棲む場所)づくり」への助成や、太陽光発電システムの導入支援とともに琵琶湖の固有種・ニゴロブナの放流事業に資金を拠出する「カーボンニュートラルローン 未来よし」の取り扱いなど、多様な取り組みを展開しております。加えて、昨年11月には、生物多様性保全の普及・啓発をめざす当行独自の「生物多様性格付(PLB格付BD)」を全国の金融機関に先駆けて運用を開始しました。

一方、これら本業での取り組みと並行して、自らの省資源・省エネルギー活動による「エコオフィス」づくりはもちろん、役職員による琵琶湖岸のヨシ刈りや外来魚駆除釣りなどの「環境保全活動」に取り組んでおります。

環境と生物多様性の保全に向けたこれらの取り組みを冊子にまとめ、「地域の皆さまと一層の連携を」との願いを込め、「CSRレポート2010」を刊行させていただき運びとなりました。今後とも“エコ・ファースト企業”として、「お金の流れで地球環境を守る」との気概で「環境経営」の实践と充実に努めてまいります。

平成22年9月

取締役頭取 **大道良夫**



## しがぎんのデータ (平成22年3月31日現在)

名称	株式会社 滋賀銀行 THE SHIGA BANK, LTD.
本店所在地	滋賀県大津市浜町1番38号
設立	昭和8年10月1日
総資産	4兆2,856億円
預金残高	3兆8,909億円 (譲渡性預金含む)
貸出金残高	2兆7,215億円
資本金	330億円
従業員	2,352人
店舗数	137カ店 (うち代理店8カ店)



## 編集方針

滋賀銀行は、平成13年から「環境レポート」を毎年発行し、平成16年に「CSRレポート」に改称、今回が10冊目となります。

本レポートは、当行が「クリーンバンクしがぎん」として果たすべきCSRに関する方針や活動を報告するものです。

「CSR憲章(経営理念)」の3つの約束、①地域社会との共存共栄、②役職員との共存共栄、③地球環境との共存共栄の各テーマを軸に、わかりやすい言葉と写真の多用により、活動内容をご理解いただけるよう心がけました。一人でも多くの方にお読みいただくと幸いです。

※財務面および、その他詳細な情報については、「ディスクロージャー誌」または「ホームページ(<http://www.shigagin.com>)」をご覧ください。

※「エコ・ファーストの約束」の取り組み項目には  マークを、生物多様性保全の取り組み項目には  マークを表示しています。

## 報告対象組織

滋賀銀行の活動を対象としていますが、一部関連会社の活動も掲載しています。

## 対象期間

平成21年度(平成21年4月1日から平成22年3月31日)を主な報告対象とし、一部には、平成21年度以前の活動や平成22年8月までの最新情報を含んでいます。

次回の報告書発行予定：平成23年9月

## CONTENTS

### トップメッセージ

## 「CSRのしがぎん」をめざして

- 2 しがぎんのCSR
- 3 「エコ・ファーストの約束」進捗状況

## 地球環境との共存共栄

- 4 ISO14001の取り組み
- 5 地球温暖化防止に向けた取り組み
- 6 エコオフィスづくり
- 8 お金の流れで地球環境を守る
- 16 生物多様性保全に向けた取り組み
- 18 環境コミュニケーション
- 20 広がる環境ボランティアの「環」
- 21 環境会計

## 地域社会との共存共栄

- 22 社会貢献活動の取り組み
- 23 文化の取り組み
- 24 お客さま満足度の向上をめざして

## 役職員との共存共栄

- 26 一人ひとりが力を発揮できる職場づくり
- 30 コンプライアンスの取り組み
- 31 事業継続に向けた取り組み
- 32 しがぎんCSR HISTORY
- 35 第三者意見

 マークの内容はwebサイトに詳細を掲載しています。  
<http://www.shigagin.com>

# しがぎんのCSR

滋賀銀行は、環境を主軸とするCSR(企業の社会的責任)の追求を「銀行経営の要諦」と位置づけ、「クリーンバンクしがぎん」を合言葉に、経営に環境を取り込んだ「環境経営」と、金融に環境を組み込んだ「環境金融」を展開しています。

行是  
自分にきびしく  
人には親切  
社会につくす

## CSR憲章(経営理念)

私たちは、伝統ある近江商人の「三方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし)」の精神を継承した行是「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」をCSR(企業の社会的責任)の原点とし、社会の一員として「共存共栄」を実現してまいります。

### 地域社会との 共存共栄

地域とともに歩む銀行として、お客さまの信頼と期待にお応えするため、「健全」と「進取」の精神を貫き、地域社会の発展に努めます。

### 役職員との 共存共栄

役職員一人ひとりの人権や個性を尊重し、働きがいのある職場づくりに努め、心身ともに「クリーンバンクしがぎん」の実現に努めます。

### 地球環境との 共存共栄

琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として「環境経営」を実践し、地球環境を守り、持続可能な社会づくりに努めます。

## 「CSR憲章」の実践に向けて

当行が果たすべき社会的責任を一層明確にするため、行是である「自分にきびしく 人には親切 社会につくす」(昭和41年制定)の精神を原点とし、「地域社会」「役職員」「地球環境」との共存共栄を追求する「CSR憲章」を平成19年に地方銀行で初めて制定。また、憲章に込められた精神を体现するための具体的指針「**滋賀銀行の行動規範**」を策定しています。

CSR憲章に込めた「共存共栄」の実現に向け、全役職員が一丸となって「**CSRのしがぎん**」の確立に努めています。

## CSRの推進態勢

CSRに関する各施策および中長期計画に対し、組織横断的に協議することを目的に、頭取を委員長とする「**CSR委員会**」を年3回開催。CSR活動の一層の充実・強化に向け、積極的な討議を行っています。

用語説明

CSR=Corporate Social Responsibility(企業の社会的責任)  
企業活動の社会的、経済的、環境的側面においてバランスのとれた責任を果たすべき、とする経営の理念。

## 「エコ・ファーストの約束」 進捗状況

当行は、平成20年7月に環境省から金融業界初の「**エコ・ファースト企業**」として認定を受けました。

地球温暖化防止に向けた取り組みや、金融機関ならではの環境対応型金融商品・サービスの積極的な推進により、約束の11項目は順調に進捗しています。

用語説明

### エコ・ファースト制度

環境省が業界のトップランナー企業の環境保全に関する行動をさらに促進していくため、企業が環境大臣に対し、京都議定書の目標達成に向けた地球温暖化対策など、自らの環境保全に関する取り組みを約束する制度として、平成20年4月に設けられたもの。



「エコ・ファースト・フォローアップ式」(平成22年2月)  
小沢環境大臣と大道頭取(右)

「CSRのしがぎん」をめざして

### 1. “お金の流れで地球環境を守る”との気概で、環境対応型金融商品を積極的に推進します。

取り組み項目	進捗状況(累計)	関連ページ
「カーボンオフセット定期預金『未来の種』」により、定期預金額の0.1%の排出権を購入し、京都議定書の約束期間である5年間、国へ無償譲渡します。	6,564t	10
紙資源を節約し、「学校ビオトープ」づくりに貢献する「エコプラス定期」を平成22年3月末までに550,000件推進します。	558,153件	9
お客さまの環境保全をお手伝いする環境対応型融資商品①エコ&耐震住宅ローン、②エコ・クリーン資金、③琵琶湖原則支援資金、④カーボンニュートラルローン 未来よしを積極的に推進し、持続可能な社会の実現に努めます。	①963件 ② 38件 ③313件 ④243件	11~14
琵琶湖をはじめとする地球環境保全への願いを込めた、「しがぎん琵琶湖原則」への賛同を広く呼びかけてまいります。	6,894先	12

### 2. 地球温暖化の防止に向けた取り組みを積極的に推進します。

取り組み項目	進捗状況	関連ページ
温室効果ガス排出量を、当行全体で平成22年3月までに平成18年度比で15%削減します。	30.39%	5
①エコビジネスフォーラム サタデー起業塾、②エコビジネスマッチングフェアを開催し、環境ビジネスを積極的に支援します。	①年5回開催 ②来場者数 2,600名 商談件数 818件	18~19

### 3. 循環型社会の形成に向けた取り組みを積極的に推進します。

取り組み項目	進捗状況	関連ページ
紙ゴミを年間500tリサイクルいたします。	478t	7
「エコメール」により、紙資源・ビニール袋等の廃棄物削減に努めます。	取り扱い数 70,238通 紙資源等削減量 1,088kg	6

## エコ・ファースト推進協議会を設立

NEW

エコ・ファースト企業として環境省から認定を受けている当行を含む23社は、平成21年12月に「**エコ・ファースト推進協議会**」を設立しました。

これは、各企業が個別に宣言している約束の確実な実践と、先進性・独自性に富む環境保全活動の一層の充実・強化に向けて創設したものです。今後、エコ・ファースト企業間の連携を図り、地球温暖化対策など地球環境保全の取り組みのさらなる前進をめざします。

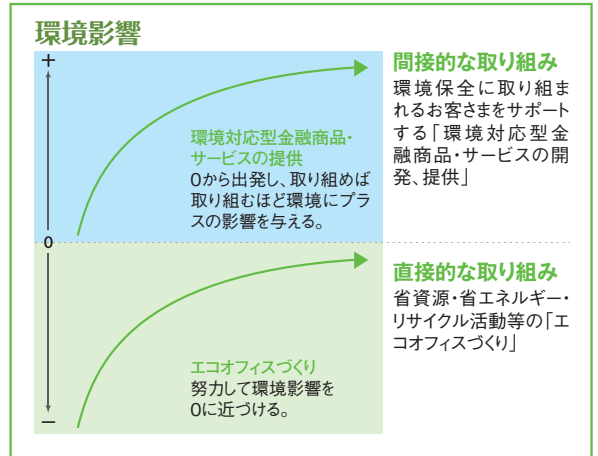


# ISO14001の取り組み

当行は、省資源・省エネルギーの「エコオフィスづくり」と、本業を通じた「環境対応型金融商品・サービスの開発、提供」を2本柱として、取り組み内容を充実・進化させてまいりました。

平成22年3月、ISO14001の認証取得より11年目を迎えるにあたり、さらなる「環境マネジメントシステム」のスパイラルアップを図るため、より現在の活動に即した内容の「環境方針」に改定いたしました。

## 環境マネジメントシステムの考え方



### クリーンバンクしがぎん ～「クリーン」に込めた4つの思い～

- ①省資源・省エネルギーの「エコオフィスづくり」
- ②「環境対応型金融商品・サービスの開発、提供」による地域への環境保全活動への働きかけ
- ③倫理観の強い行員づくり
- ④透明度の高い情報開示

平成11年に  
宣言！

## 滋賀銀行 環境方針 ～クリーンバンク「しがぎん」をめざして～

1

### 省資源・省エネルギー活動

省資源・省エネルギー・リサイクル活動等の「エコオフィスづくり」を推進し、環境負荷の低減に努めます。

2

### 金融サービスを通じた環境保全

環境対応型金融商品・サービスの開発・推進ならびに情報提供を通して、琵琶湖をはじめとする地球環境保全への取り組みを、地域と連携して行います。

滋賀銀行は、「未来からの預かりもの」である琵琶湖を擁する滋賀県の地元銀行として、「環境金融」の更なる充実により、持続可能な社会づくりに貢献するとの使命を再認識し、「お金の流れで地球環境を守る」との気概で、「地球温暖化防止」ならびに「生物多様性保全」に向けた取り組みの実現に努めてまいります。

3

### 環境関連法規等の順守

環境に関連する法規制、および滋賀銀行ならびにグループが同意するその他の要求事項を順守します。

4

### 全員参加と啓発

役職員一人ひとりが環境問題に関する認識を深め、地域社会の環境保全活動を推進するために、積極的な啓発活動に取り組みます。

5

### 環境方針の公開

この環境方針を役職員および当行のために働く全ての人に周知し、広く内外に公開します。

平成22年4月改定



## ISO実施責任者の声

本店営業部 武笠 純子



当部は紙資源の削減において朝礼や終礼時、会議等で使用状況を発表し、各人が必要なコピーなのかを考え、両面印刷を推奨しています。また適時ゴミの分別チェックも実施しています。

このような取り組みの中から、「こうしたら環境負荷の低減につながるのではないか」といった前向きな意見も出るようになりました。今後も支店全体で環境保全への意識を持ってISOに取り組んでまいります。

TOPICS

NEW

## 環境目的・目標に新たに「ROC」を設定

平成22年度より、環境マネジメントシステムに、「**ROC (Return on Carbon=炭素利益率)**」を環境目的・目標として組み入れました。

「ROC」とは、企業の営業利益とCO<sub>2</sub>排出量との関連を示す指標で、「どれだけ少ないCO<sub>2</sub>排出量で、効率的に多くの利益を得るか」を数値化したものです。平成22年度は、ROC指数2,500以上にチャレンジします。



関連項目はWEBをcheck

●平成21年度 環境活動の目標と実績



## 環境法規制の順守

平成21年度においても、環境に関する法令違反、ならびに環境に関する事故はございませんでした。

# 地球温暖化防止に向けた取り組み

第4次長期経営計画では、3つのブランド戦略(「ネットワーク」「アジア」「CSR」)を柱とした営業戦略を展開しています。とくに、長期経営計画では「温室効果ガス排出量削減」を挑戦指標に掲げ、地球温暖化防止に取り組んでいます。



## 温室効果ガス排出量 33.04%削減

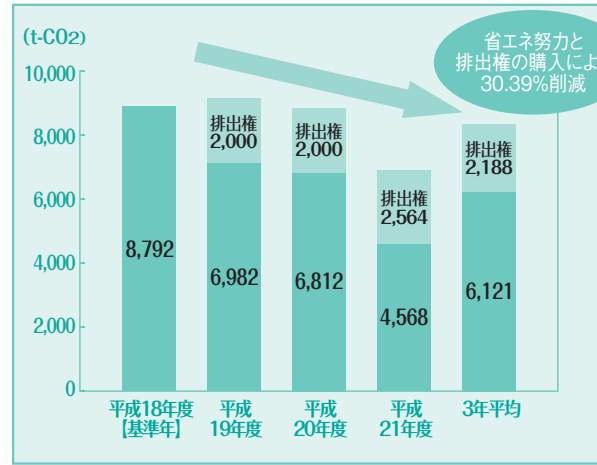


前長期経営計画(平成19年4月～平成22年3月)において、「**温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量6%削減(平成18年度対比)**」を経営計画に盛り込み取り組んでまいりました。省資源・省エネルギーの活動をはじめ、お客さまが取り組まれる環境保全活動を金融面で支援してきた結果、平成22年3月末最終実績では、**CO<sub>2</sub>排出量を33.04%削減**することができました。

**ココに注目!** [Web](#) 詳細はWEBをcheck

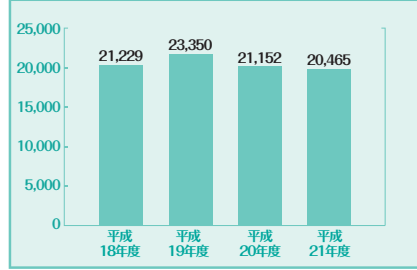
温室効果ガス排出量削減の内訳は、真水による削減分5.5%、排出権の購入による削減分24.89%により、30.39%の削減となりました。尚、当行独自の長期経営計画には、本業の金融商品を通じた削減分1.72%、植樹活動や環境対応車への切り替えによる削減分0.93%が含まれており、トータルで33.04%の削減が図れました。

## 温室効果ガス排出量の実績推移

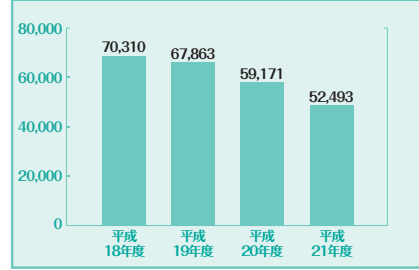


※新事務棟へのコンピュータシステムの移行に伴う二重稼働により、平成19年、20年度のCO<sub>2</sub>排出量は増加しましたが、平成21年度は大幅に削減が図れました。

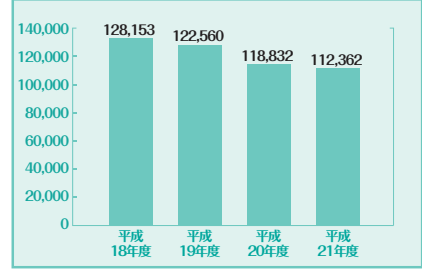
## 電力使用量(千kWh)



## ガス使用量(m<sup>3</sup>)



## 上下水道使用量(m<sup>3</sup>)



## 第4次長期経営計画では 温室効果ガス25%削減に挑戦



平成22年4月にスタートした、第4次長期経営計画(平成22年4月～平成25年3月)では、「**CO<sub>2</sub>排出量25%削減(平成18年度対比)**」に挑戦します。日本の中期目標は、「温室効果ガスを2020年までに1990年対比で25%削減」という目標ですが、当行の削減目標はそれを大きく上回る挑戦的、野心的な目標になります。地球温暖化防止に向けて、積極的な活動を展開してまいります。

### 具体的な取り組み内容

- ・ 役職員自らが省資源・省エネルギー活動に努める
- ・ 環境効率の高い省エネルギー機器への更新
- ・ グリーンITの導入
- ・ お客さまへの金融面での環境保全活動支援
- ・ 植樹活動や、自社車輛の環境対応車への切り替え

## TOPICS

### 地球環境保全に貢献 ～新入行員による植樹を実施～

新入行員162名が「びわこ地球市民の森」で、アラカシやシラカシ、ヤマモモなど500本の苗木を植樹しました。当日は天候にも恵まれ、自らが環境保全活動を体感することにより、当行のCSR経営への理解を深めました。

また、植樹後は創立70周年に当行が植樹をした区画を見学。7年近くで大きく立派に生長した樹木に、新入行員一同大変感動し、地球環境保全への思いを新たにしました。



# エコオフィスづくり

「滋賀銀行 環境方針」のもと、営業活動に伴う電力や紙の使用量を削減する、省資源・省エネルギー活動に努め、「エコオフィスづくり」を積極的に進めています。

## 地球環境に配慮「エコメール」

月刊情報誌をはじめとする広報冊子は、開封テープと宛名ラベルのみの簡易包装「エコメール」で発送しています。

平成21年度は70,238通をエコメールで発送し、不要となる封筒やビニール袋などの廃棄物1,088kgを削減することができました。

開封テープと宛名ラベルは簡単にはがすことができます。



エコメール



太陽光発電パネル(宇治支店)



屋上緑化と太陽光発電パネル(しがぎん浜町研修センター)



壁面緑化(しがぎん浜町研修センター)

## 施設の環境対応を進めています

店舗や施設の新設、移転にあたっては、「太陽光発電パネル」や「壁面緑化」、「LED照明」、「雨水利用」など、設備の環境対応を積極的に進めています。

### ココに注目!

しがぎん浜町研修センターは、「人材育成」と「環境を主軸としたCSRのしがぎん」のシンボルタワーです。環境面では、当行の環境ビジネス支援を通して実を結んだお客さまの最先端の環境技術・製品を多数導入。財団法人建築環境・省エネルギー機構が建築物の環境性能を総合的に評価する「CASBEE」で、最高の「Sランク」を取得しています。







電気自動車

## 走行中のCO<sub>2</sub>排出量はゼロ 電気自動車を導入

NEW

当行が使用する自社車両をハイブリッドなどの環境対応車に順次切り替えています(環境対応車導入率85.6%)。

また、平成22年7月1日の「銀行の日」には、当行で初めてとなる「**電気自動車**」を導入しました。



## エコスタイルで 地球温暖化防止

夏季の軽装により、室内温度を28℃に設定し、電力使用量を削減して温室効果ガス排出量を削減する「しがぎんエコスタイル」キャンペーンを全店で展開しています。

加えて、冬季は室内温度を20℃に設定し、省エネ活動に取り組んでいます。



## 箱なしコピー用紙配達で 環境と福祉に貢献

「滋賀グリーン購入ネットワーク」が進める、箱なしコピー用紙配達事業「**エコラボはーと・しが**」に参加しています。

これは、共同作業所のスタッフが、通常のダンボール箱の代わりに、何度も使用できるプラスチック製の通い箱を活用して、コピー用紙を参加企業へ配達する取り組みで、本部で使用するコピー用紙の一部を本事業により購入しています。

### ココに注目!

環境(不要な包装の削減)+福祉(障がい者雇用促進)に貢献できる、滋賀オリジナルのCSR活動です。

プラスチック製の通い箱

## ノベルティグッズもグリーン購入

当行の定める「グリーン購入基本方針」のもと、環境負荷ができるだけ少ない商品やサービスを優先的に購入する「**グリーン購入**」の実践に取り組んでいます。

### ココに注目!

お客さま自身が「グリーンコンシューマー」となっただけのよう、ノベルティグッズもグリーン購入商品です。



## 行内のリサイクルシステムで 紙ゴミを再生

ECO FIRST

行内に設置している「**リサイクルシステム**」により、顧客情報などに関する機密書類を全店から集めて破碎処理し、再生紙工場に持ち込んで、トイレトーパーなどに再生しています。

平成21年度は478tの紙ゴミを破碎室へ持ち込み、リサイクル率は99%になりました。

### ココに注目!

行内のリサイクルシステムの活用により、機密情報の漏洩も防止できます。

## ペットボトルキャップの リサイクル

滋賀県内の企業が加盟する社会貢献組織「**淡海フィランソコピーネット**」のペットボトルキャップリサイクル事業に参加しています。

当行本店にてペットボトルキャップを回収し、県内の共同作業所に提供。回収したペットボトルキャップは、分別・洗浄作業後に再生業者に販売され、その収益が共同作業所に還元されています。



### グリーン購入推進団体の声

滋賀グリーン購入ネットワーク(滋賀GPN)  
事務局次長 辻 博子

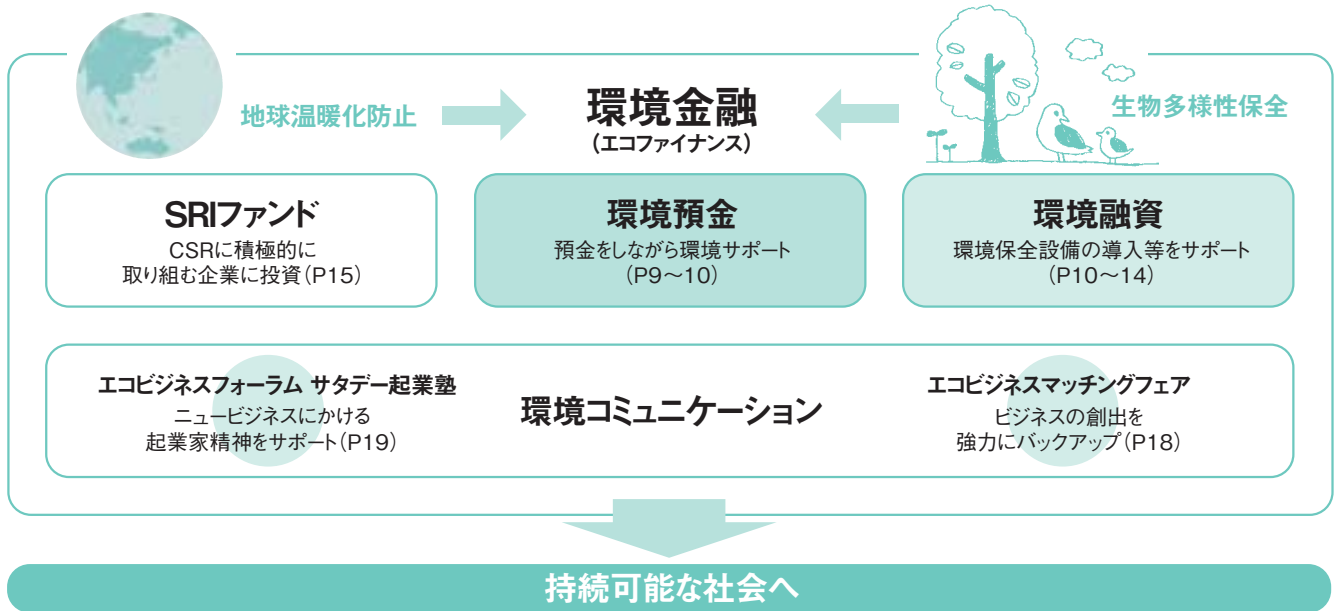


お客さまに見えない所でも「やれることはとことん」実践されている滋賀銀行さんの環境保全活動は、他のGPN会員に良い刺激を与えていただいていると感じています。エコ検定、びわ湖検定の合格者も多いそうで、積極的に自己研鑽に努められる行風も素晴らしいですね。滋賀の、そして全国のGPN活動においても、今後もますますのご活躍を期待しています。



# お金の流れで地球環境を守る

経済の血液である「金融」の役割を通じて、地球温暖化防止をはじめとする持続可能な社会づくりに貢献できる可能性は、ますます拡大しています。加えて、銀行は公共性の高い業種であり、地域社会に与える影響も少なくありません。このような金融機関としての使命を真摯に受けとめ、「お金の流れで地球環境を守る」との気概で、数々の環境対応型金融商品・サービスを開発、提供し、「環境金融」の実践により、地球環境保全に貢献しています。



## 環境コミュニケーション大賞 「環境金融報告特別優秀賞」を受賞

平成22年3月、「第13回 環境コミュニケーション大賞(主催：環境省、財団法人地球・人間環境フォーラム)」において、当行の「CSRレポート2009 未来をみつめて。」が、環境報告書部門「**環境金融報告特別優秀賞**」を受賞しました。これは昨年の「奨励賞」に引き続き2年連続の受賞となります。

審査員講評では、「早い時期から地域特性を反映した環境経営に先進的に取り組み、『**お金の流れで地球環境を守る**』という考え方と**トップコミットメントは明確かつ的確である**。報告書の構成や記述はコンパクトでありながら、行間に金融業としての思いが込められており、とても読みやすい」と評価されました。

## 日本環境経営大賞 「環境経営パール大賞」を受賞

平成22年6月、「第8回日本環境経営大賞(主催：日本環境経営大賞表彰委員会、三重県)」において、「**環境経営パール大賞**(環境経営部門の最優秀賞)」を受賞しました。

当行は第1回(平成15年)においても同賞を受賞。さまざまな環境対応型金融商品・サービスの提供により、金融機関としての役割を通じて地球環境保全に貢献してきたこと、また、**地域と連携しながら「環境金融」を実践している**ことなど、成果の積み上げが極めて顕著なものであるとして、高く評価されました。



(財)地球・人間環境フォーラム  
炭谷理事長と磯部専務(右)



日本環境経営大賞表彰委員会 山本委員長と大道頭取(右)

## 「学校ビオトープ」で環境学習 エコプラス定期



エコプラス定期は、当行創立70周年を記念して平成15年より取り扱いを開始。お客さまが当行のダイレクトチャネル(ATM、電話、インターネット)を利用して定期預金をしていただくと、**1回のお預け入れごとに7円**(ダイレクトチャネル利用で不要となる定期預金申込用紙代相当額)を当行が負担して積み立て、滋賀県内の小学校の「学校ビオトープ」づくりの資金として拠出させていただくものです。

平成22年度は3校に各々50万円を寄贈し、平成18年度以来、助成校は累計で16校、総額754万円にのぼります。

### 平成22年度「学校ビオトープ」助成校

大津市立膳所小学校、東近江市立八日市南小学校、竜王町立竜王小学校



平成21年度

## いのちの大切さを学ぶ 「ビオトープ助成校」の活動紹介

「未来を担う子どもたちに、多様な生物との共生空間である『ビオトープ』を通じて、いのちの大切さや生態系の仕組みを学ぶきっかけをつくるお手伝いがしたい」との思いから始まった助成活動。子どもたちは生き物や植物の観察を通して多くのことを学び、「環境学習の実践の場」としてご活用いただいています。

### 近江八幡市立北里小学校

100周年記念事業として日野川の伏流水をくみあげた水車がシンボルのビオトープには、メダカやコイなどさまざまな生き物が生息。休み時間には子どもたちが散策するなど、心の癒しの場となっています。

今回の助成金により、スイレンやハスなど水生植物を約80mの直線型水路に植栽。ビオトープの整備費用として活用されました。

### 東近江市立御園小学校

980㎡の広大なビオトープ施設には、林や池、小川が作られ、さまざまな生物が生息しています。

子どもたちは、ビオトープ内での遊びや学習を通じて、自然に触れる機会が増えており、全学年においてビオトープを活用した環境学習が実施されています。

### 草津市立草津小学校

ビオトープ内には、太陽光発電で動く噴水装置が設置され、地球温暖化防止のシンボルとして、子どもたちが自然エネルギーの活用にも関心が持てるよう工夫されています。また、琵琶湖で採取した魚を放流するとともに、ヨシやマコモ、ガマなどの水生植物を植栽。冬にはビオトープ内で「ヨシ刈り」も実施されました。

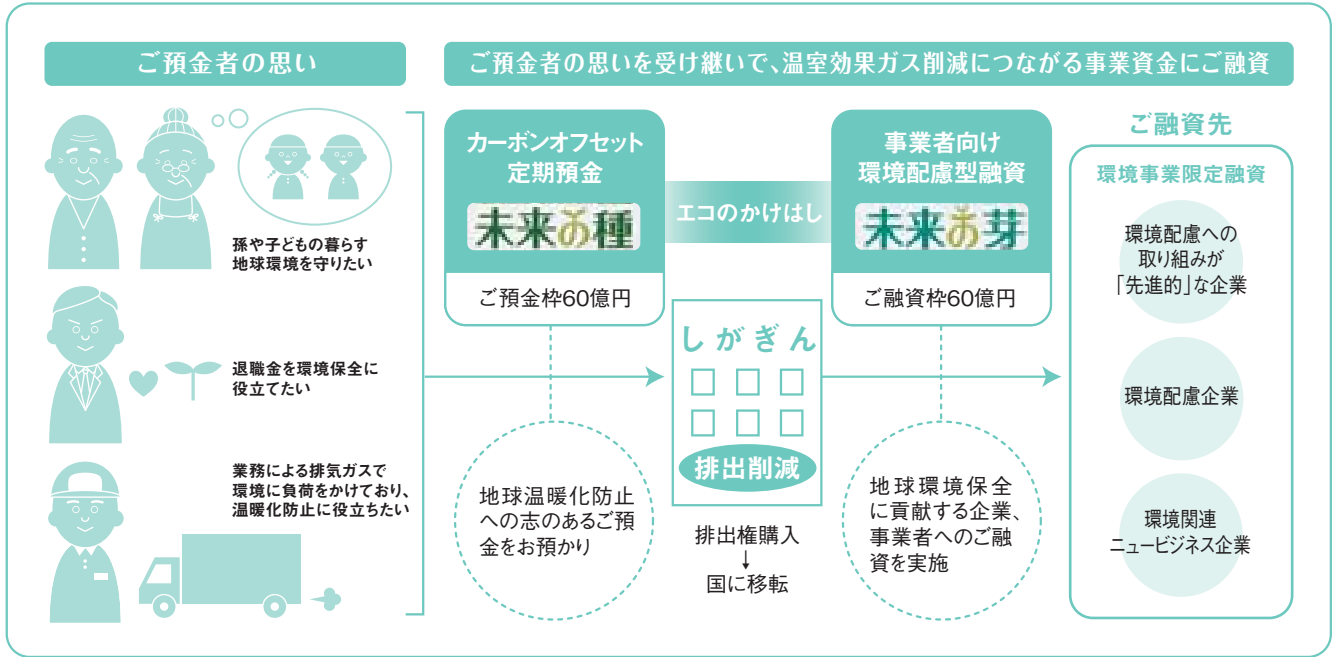
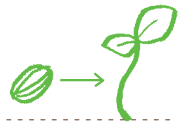
近江八幡市立北里小学校



東近江市立御園小学校



草津市立草津小学校



お客さまからお預け入れいただいた定期預金の金額に応じ、当行が費用を負担して温室効果ガス排出権を購入する「**カーボンオフセット定期預金『未来の種』**」の取り扱いを、平成20年4月、国内の金融機関で初めて開始しました。

また、同年7月には「カーボンオフセット定期預金『未来の種』」による、地球温暖化防止への思いが込められたご預金を、環境配慮に先進的な事業者の皆さまや、温室効果ガス削減への取り組みで必要とされる資金にご融資する「**事業者向け環境配慮型融資『未来の芽』**」の取り扱いを開始しました。

「温室効果ガス削減への思いが込められたご預金を原資に、温室効果ガス削減に取り組まれようとする事業先へご融資する」、まさに「**お金の流れで地球環境を守る**」という当行独自の「環境金融」です。両商品ともにご好評いただき、ご預金枠・ご融資枠ともに60億円に達したため、取扱いは終了させていただきました。

**ココに注目！**

窓口でのお客さまの反応は、京都議定書の5年間に合わせた預け入れ期間の長さにも戸惑われることもありましたが、地球温暖化防止に込めた当行の思いをご説明すると、ご賛同いただける方も多く、環境意識の高い個人の方を中心にお預け入れいただきました。平成21年度も、お預け入れ残高の0.1%分として排出権2,564tを購入し、初年度分から累計で6,564tの排出権を国に無償で譲渡しました。

用語説明

**カーボンオフセット**

地球温暖化対策として、企業や消費者が排出した温室効果ガスの一部を排出権の取得や自然保護活動への協力等で相殺すること。



平成20年度「地球温暖化防止活動環境大臣表彰」を受賞



**Column**

～歴史を振り返る～

**当行初の環境対応型預金商品「しがぎん愛のみずうみ口座」**

当行初の環境対応型預金商品である、「ボランティア預金『しがぎん愛のみずうみ口座』」は、創立60周年(平成5年)の記念事業の一環として、平成4年5月から5ヵ月間取り扱いました。

当時、滋賀県内初の国連組織として「国際環境技術センター」の設置が急がれていました。これは、UNEP(国連環境計画)の下部機関で、琵琶湖で構築された淡水化技術を移転して開発途上国の環境保全活動を支援するものです。

「愛のみずうみ口座」は、お客さまからお預かりした定期預金の利息の一部を同センター設立基金に充当し、当行も同額以上を寄付(マッチングギフト)するというユニークな取り組みで全国の注目も集めました。期間中の申込口数は個人、法人合わせて約1万5千口、預入総額は約69億円にのぼり、当時の環境保全への関心の高さを示しています。利息の一部である510万円と当行のマッチングギフトとして690万円、合わせて1,200万円を贈呈しました。



## 環境+防災意識の共有化と促進 エコ&耐震住宅ローン



「エコ&耐震住宅ローン」は、**環境対応型住宅および耐震住宅の促進**を目的に、同住宅を購入される場合に金利を引き下げるものです(平成17年取扱開始)。

太陽光発電システム導入住宅やエネルギー効率の高い住宅を普及促進することにより温室効果ガスの排出量を削減。また、滋賀県には琵琶湖西岸断層帯が存在しており、耐震住宅の建設を促進することにより、お客さまの生命や、財産を守るためのお役に立ちたいとの願いを込めています。

加えて、省エネルギー住宅や耐震住宅へのリフォームをお考えのお客さまには「セレクトリフォームローン(エコ&耐震)」を通常よりも低い金利で必要な資金をご融資いたします。



## 地球温暖化防止に向けた 取り組みを支援



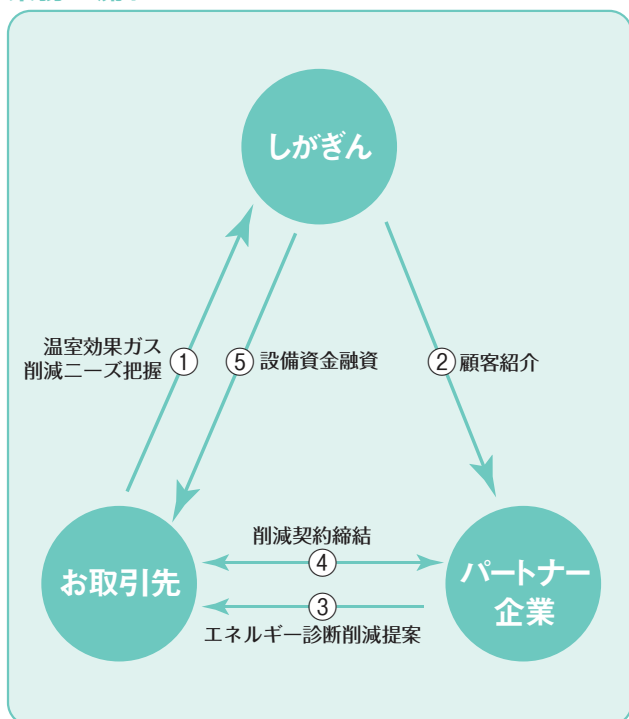
### 温室効果ガス削減支援業務

「**温室効果ガス削減支援業務**」として、ランニングコスト(光熱費)と温室効果ガスの削減につながる取り組みを支援しています(平成21年2月取扱開始)。

具体的には、温室効果ガス排出削減の必要性を認識されたお取引先さまの所有設備やエネルギー使用状況などを当行が把握し、削減ノウハウを有するパートナー企業にご紹介。当行はパートナー企業と共同で具体的な削減手法を提案し、削減に向けた設備投資に必要な資金をサポートします。

本業務により、地域の金融機関として、地域社会の低炭素化に貢献するとともに、省エネ設備への投資を促進して地域経済の活性化を実現していきます。

### 業務の流れ



## TOPICS

### CO<sub>2</sub>の地産地消

政府が主導する「試行排出量取引スキーム」に目標設定参加者として参加しています。

また、同スキームの「国内クレジット制度」に基づく温室効果ガス排出削減事業の共同実施者にも参加し、「地元中小企業向けの環境対策支援サービス」に活かしています。

具体的には、繊維製品製造工場で実施する温室効果ガス排出削減事業の共同実施者となり、排出削減に協力し、将来的に当行が排出権を取得するものです。

地元で発生した排出権を取得することで、**地域経済の活性化と地球規模での温暖化防止**の両方に貢献できる新たな取り組みと考えています。

#### 繊維製品製造工場のボイラーにおける燃料転換



#### 用語説明

##### 国内クレジット制度

大企業が資金や技術を提供して中小企業等が行った温室効果ガス排出抑制の取り組みによる排出削減量を、「国内クレジット認証委員会」が認証し、排出権として利用できる制度。



### 温室効果ガス削減支援業務担当者の声

営業統轄部 保田 高宏



温室効果ガス削減支援の取り組みは、「環境と経済」の両立をめざし、エネルギー消費量(光熱費)削減の可能性があるお客さまと省エネ技術を有する地元を中心としたお取引先さまの「かけはし」になれば、との思いで企画しました。

エネルギー消費量削減は、地域の温室効果ガス削減につながります。日々進歩する省エネ技術を取り込みながら本取り組みを展開し、地域経済の活性化と温暖化防止に貢献できるよう努めてまいります。



## 地球環境保全への願いを込めて



お客さまと手を携え、環境保全に向けた取り組みを一層促進させるため、平成17年12月に「しがぎん琵琶湖原則(PLB=Principles for Lake Biwa)」を策定し、琵琶湖をはじめとする地球環境保全への願いを込めた、この原則への賛同を広く呼びかけています。

ご賛同いただいたお客さまのうち、ご希望の方には「環境を主軸としたCSR経営に関する資料」に基づき、当行独自の**PLB格付(環境格付)**を実施。環境経営に対する「気づき」のツールとしてご活用いただいております。

### 〈PLB3原則〉

- 1.環境保全に役立つ生産・販売・サービス基準を策定します。
- 2.環境配慮行動とビジネスチャンスの両立をめざします。
- 3.環境リスクを軽減し、持続可能な地域社会を実現します。



## 環境を主軸とするCSR活動をサポート 琵琶湖原則支援資金

「琵琶湖原則支援資金(PLB資金)」は、環境保全に取り組まれるお取引先の皆さまをサポートする「**エコ・クリーン資金**」(平成22年3月末現在実行累計：707件、86億75百万円)の商品内容を充実・発展させ、PLB格付によるお客さまの取り組み度合いを反映して最大で金利を年0.5%差し引かせていただく商品です。

この「PLB資金」には、地元中堅・中小企業による「**環境経営**」を支援し、地域と連携して「**持続可能な企業と地域社会**」を実現しようとの強い願いを込めています。

平成22年3月末現在、融資累計は785件、163億33百万円となりました。

### ココに注目!

PLBへの賛同先数は、6,894先にのぼり、県内・県外を問わず大きな影響をいただいております(平成22年3月末現在)。

- ①PLBへの賛同 → ②PLB格付を取得 → ③PLB資金によるお借入

### 格付評価項目

ISO14001等の認証取得	グリーン調達・グリーン購入の取組
環境会計導入	コンプライアンスの推進部署の設置状況
土壌汚染、騒音、振動等への取組	環境報告書の発行
環境に配慮した製品・商品の取扱	環境報告書の発行
法令遵守方針の策定	投資案件決定時の環境考慮対応
環境方針の策定	地球温暖化ガス(CO <sub>2</sub> )排出量削減への取組
環境保全のボランティア活動	
省エネ・省資源への取組	リサイクルへの取組

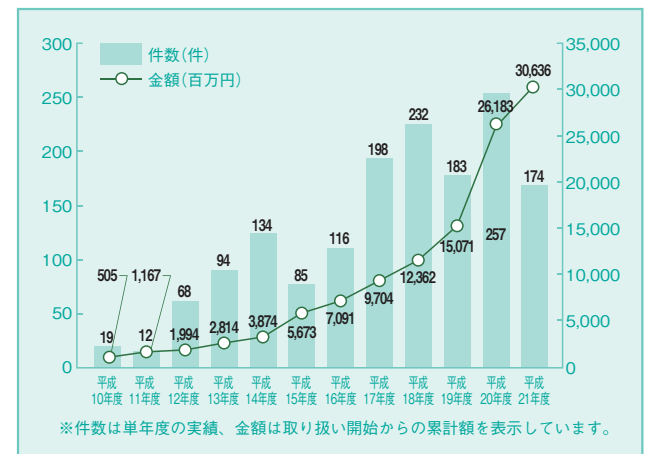
PLB格付	格付評価	金利引き下げ幅
L1	取り組みが先進的	0.5%
L2	取り組みが十分	0.4%
L3	取り組みが普通	0.3%
L4	今後の取り組みに期待	0.2%

(注)L5に格付された場合はPLB資金をご利用いただけません。

### 〈PLB資金プラン〉



### 〈エコクリーン資金・PLB資金・未来の芽〉実績



NEW

### TOPICS

### PLB資金(環境省利子補給活用プラン)の 取り扱い開始

PLB資金(環境省利子補給活用プラン)の取り扱いを平成21年10月からスタートしました。この商品は、環境省の実施する利子補給制度に則したもので、地球温暖化対策を計画の事業者へのご融資に対し、3年間にわたり国から利子補給(3%上限)を受けることができます。

この事業では、環境省の公募により取り扱い金融機関が選定されており、当行は地方銀行で最初に選定されるとともに、公募にあたって環境省が公表した環境格付基準は、当行の「PLB格付」を参考に策定されています。

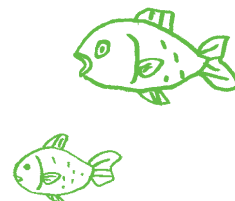
## 新たな環境のキーワード 「生物多様性保全」への挑戦

「生物多様性格付(PLB格付BD)」は、お取引先の皆さまが、生物多様性の保全に対して、具体的な行動を促す「道しるべ」となるよう、当行が開発した独自の評価指標です。生物多様性格付を環境格付と別立てとして公表するのは、全国の金融機関で初めての取り組みとなります(平成21年11月運用開始)。

本取り組みは、格付の趣旨である「**豊かな生物多様性の継承と自然共生社会の構築**」に賛同され、格付の取得を希望される方を対象に、8項目の評価指標を用いて、「**生物多様性配慮**」について測定・評価。PLB格付BDで一定以上の評価を取得いただくと、PLB資金の融資金利と合わせ最大で年0.6%の引き下げが可能となります。

### 《生物多様性格付評価指標》

分野	評価指標(概要)
経営方針	1.「生物多様性保全」方針の策定状況
推進・管理体制	2.推進・管理体制の構築状況
活動の実施	3.影響の考慮と低減・回避のための行動の有無
	4.ビジネスの中への組み込み状況
	5.自然再生や伝統文化保全の活動への貢献度合
普及啓発・活動の公表	6.専門的な知識を有する研究機関等との連携状況
	7.社員や取引先に理解を深める機会の設定状況
	8.活動や成果の公表状況



## 生物多様性の保全をめざして

生物多様性の保全が重要であることは理解できても事業活動との関連性を含め、体系的に整理できている企業はまだまだ少ない状況です。本格付を、生物多様性の重要性について意識を高める「気づき」のツールとして、また、企業活動に積極的に環境マネジメントを取り入れるための「きっかけ」として幅広くご利用いただけることを願っています。

用語説明

BD=Biodiversity(生物多様性)

「地球では、さまざまな生きものがつながりあい、支えあって生きており、その「多様性」を指標にして多様な価値を守っていこう」という概念。

### TOPICS 生物多様性全店説明会を開催

「生物多様性格付」の運用開始にあたり、全店説明会を実施しました。各店の担当者が生物多様性保全の重要性を理解した上で、お取引先の皆さまに「企業と生物多様性保全」の取り組みを普及・啓発していくことが本格付の趣旨であるためです。

活動評価の見極めは困難を極めますが、支店担当者、本部、外部専門機関と連携の上、慎重に評価を行っています。



### 生物多様性に関する専門家の声

結・社会デザイン事務所  
代表 菊池 玲奈



「生物多様性」の取り組みが「地球温暖化対策」と大きく異なる点は、それぞれの主体や現場ごとに課題を見極め、個々に応じた対策が要求されることでしょう。その複雑さは「評価基準」の策定の難しさにも直結します。

「PLB格付BD」は、社会に無難な正解が出るのを待って動くのではなく、常に自らが率先して課題に向き合い、解決への役割を果たしていこうという滋賀銀行らしい真摯な挑戦であり、今後一層の発展を期待しています。



### 「生物多様性格付」企画担当者の声

審査部 澤村 享明



生物多様性(BD)の保全活動を評価する基準は、専門家の間でも確立されていない状況でしたので、格付づくりは困難を極めました。

金融機関にできることには限りがありますが、本格付を「きっかけ」として、お取引先の皆さまが「BDへの配慮なしに企業活動は成立しない」という認識のもと、自社の事業活動とBDの関わりを把握され、保全活動を進めていただけることを願っています。

# ニゴロブナを累計9万匹放流 カーボンニュートラルローン 未来よし



第12回 新エネ大賞  
「新エネルギー財団会長賞」受賞

「カーボンニュートラルローン 未来よし」は、**自然エネルギーの導入促進、琵琶湖の環境と生態系の保全**を目的とするサービスです(平成19年4月取扱開始)。

これは、お客さまが当行の環境対応型融資商品の利用を通じて「**太陽光発電システム**」等を導入された場合、削減された温室効果ガスの量を当行が推計し、排出権取引価格を参考に金額換算、**琵琶湖の固有種「ニゴロブナ」と「ワタカ」の保護・育成・放流事業に資金を拠出**するものです。

なお、各商品で適用される金利プランからさらに年0.1%の金利を差し引くことで、環境保全に“志”のあるお客さまをサポートしています。

平成19年度から総額530万円を財団法人滋賀県水産振興協会が実施する琵琶湖の生態系保全事業に寄贈しており、これはニゴロブナ12万匹、ワタカ3万匹相当にあたります。



ワタカの稚魚



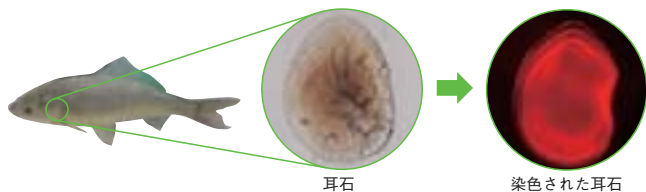
琵琶湖の固有種で絶滅危惧種の「ニゴロブナ」

**用語説明** **カーボンニュートラル**  
日常生活や事業活動に伴って発生する温室効果ガスを、植林や自然エネルギーの導入などにより実質的にゼロに近づける取り組み。

## ココに注目!

放流する「ニゴロブナ」は、内耳の「耳石」に特殊な色素で染色し、識別できることから、一定期間後にサンプリング(捕獲)して繁殖状況などを調査します。  
ニゴロブナの漁獲量は、平成9年に統計上最少の18tまで落ち込みましたが、平成20年の統計では39tとなり、徐々に漁獲量も増加の兆しがあります。当行のニゴロブナ放流事業も微力ながら寄与しています。

しがぎんが放流したニゴロブナのしるしとして、3重のリングマークをつけています



※掲載の耳石の写真は滋賀県水産試験場よりご提供いただきました。

## ニゴロブナ放流式を開催



平成22年1月、草津市の烏丸半島で「**ニゴロブナ放流式**」を開催しました。

この日放流したニゴロブナは、1年間養殖し体長約12cm程度になった未成魚で、役職員ボランティアの「元気に育って」という掛け声のもと、一斉に琵琶湖に放流しました。



「元気に育って」と呼びかけながら、次々にニゴロブナを放流



## 「企業格付制度」は“環境”も視野に

当行では、CSRの側面も加味した、「企業格付制度」を実施しています。

「企業格付制度」では、環境保全に熱心なお取引先の活動を取引評価ならびに信用格付に反映させるため「**環境配慮評価項目**」を設けています。

また、この格付制度を、お取引先の企業価値向上に向けた提案や親身なソリューション活動を充実させるための「コミュニケーションツール」として活用し、「**知恵と親切を提供するビジネス**」を展開してまいります。

## 豊富なSRIファンドラインナップ

環境問題や法令順守、社会的責任への取り組みが高いと評価される企業に投資する投資信託商品、SRI (Socially Responsible Investment：社会的責任投資) ファンドを豊富に取り扱っています。

### SRIファンドラインナップ

投資対象	ファンド名
国内株式	●日興エコファンド
外国株式	●地球温暖化防止関連株ファンド ＜愛称：地球力＞ ●グローバル ウォーター ファンド
その他	●ニッセイ環境先進国債券ファンド ＜愛称：エコインカム＞ ●DIAM高格付インカム・オープンSRI ＜愛称：ハッピークローバーSRI＞

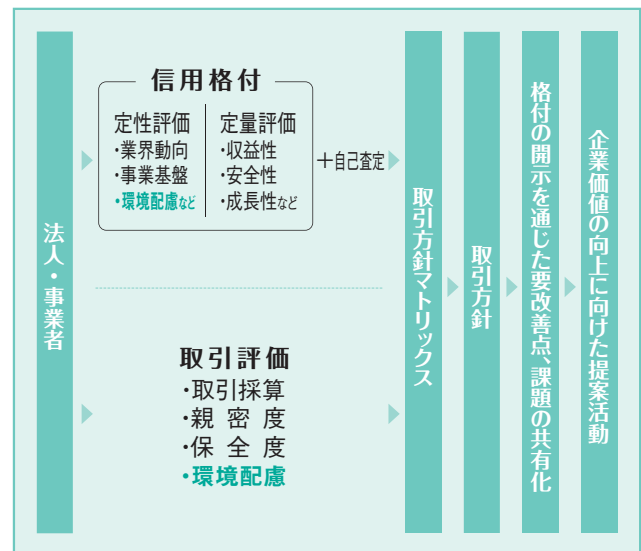
## TOPICS 「UNEP金融機関声明」の精神で活動

国連環境計画 (UNEP) が提唱している「**環境と持続可能な発展に関する金融機関声明**」に市中銀行で初めて署名 (平成13年) しています。

当行では「環境経営」を展開し、「金融機関声明」の精神の実現に努めています。



## 企業格付制度



地球環境との共存共栄

## きれいな土地を未来へ

「土地をきれいなまま子どもたちへ、そして未来へ残そう」との願いから、土壤汚染対策法の施行に伴い、以下の対応を行っています。

### 担保土地に対する対応

#### 新規担保

「汚染可能性が高い土地」に該当する土地は原則として新規の担保として取得しません。

(注1) 「汚染可能性が高い土地」とは、使用中のものを含め、法に定める特定有害物質を取り扱う「特定施設」の敷地を言います。  
(注2) 汚染調査の結果、汚染されていない土地や浄化された土地は担保取得します。また「汚染可能性が高い土地」に該当しても、総合的に判断のうえ取得を検討する場合があります。

#### 既存担保

法の定めにより都道府県知事が作成する指定区域の台帳に記載された土地については、評価額をゼロ円とします。  
(注) 浄化されれば台帳の記載から消去されますので、通常の評価に戻します。

### 大規模な環境被害を引き起こした企業等への対応

大規模な環境被害を引き起こした企業等については、該当先に対して行内の信用格付をランクダウンさせます。

### 担保土地のダイオキシン類に関する対応

ダイオキシン類対策特別措置法の趣旨を踏まえて、担保土地のダイオキシン類に関する対応を平成15年8月から開始しました。土壤汚染対策法への対応に準じたものです。

## TOPICS SRIファンドへの組み入れ

英国の新聞フィナンシャル・タイムズとロンドン証券取引所の合弁会社であるFTSE社の「**FTSE 4 Good Global Index**」の構成銘柄に7年連続で選ばれています。

「FTSE4Good」指数シリーズは、世界で最も注目されているSRI株価指数の1つで、環境・社会・人権など、世界的に認められた「企業の社会的責任基準」を満たした企業により構成されています。

また、投資信託情報などを提供するモーニングスター株式会社が組成・管理する「**モーニングスター社会的責任投資 (SRI) 株価指数**」の構成銘柄にも8年連続で選ばれています。



# 生物多様性保全に向けた取り組み

世界有数の古代湖として、多くのいのちを育ててきた琵琶湖の姿が大きく変化しています。身近な問題として、水質の悪化や水草の異常繁茂、外来魚の増加、湖水の大循環による「琵琶湖の深呼吸」の遅れなど、さまざまな現象は世界の環境問題を象徴していると言えます。

滋賀銀行は、琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として、琵琶湖から享受している生物多様性がもたらす恵みに感謝するとともに、この豊かな恵みを将来世代に引き継ぐため、環境対応型金融商品と生態系保全活動により、生物多様性の保全に取り組んでいます。「人と自然が共生」する持続可能な社会の実現に向けて歩みを進めてまいります。

## 里山の保全

多くの昆虫や鳥などのすみかとなる自然豊かな里山の姿を取り戻すため、マキノスキー場の「20年後に森をつくらうプロジェクト」に参加し、コナラやクスギなどを植樹しました。



## ヨシ苗植え

ヨシ群落は、魚や鳥たちの産卵・生息場所、琵琶湖の水質保全の役割を担っています。減少傾向にあるヨシ群落を保全するため、ヨシの植栽を行っています。



## ヨシ刈り→P21



## 外来魚駆除釣り→P20

琵琶湖の在来魚を守り、琵琶湖本来の豊かな生態系を保全するため、異常繁殖しているブルーギルやブラックバス等の外来魚駆除活動を行っています。



体重100gのワタカの場合、夏場には1日約30gの水草を食べます

## COP10

### パートナーシップ事業に認定

①生物多様性格付、②ヨシ刈りボランティアとニゴロブナ放流式、③外来魚駆除釣りボランティアは、平成22年10月に名古屋市で開催される、COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)を盛り上げるパートナーシップ事業の認定を受けています。



## ワタカの放流

水草を食べる琵琶湖の固有種「ワタカ」を利用して、異常繁茂する水草を除去する事業に資金を拠出しています。



## 滋賀銀行 生物多様性保全方針 ～生物多様性と経済の調和をめざして～

滋賀銀行は、多彩ないちを育む世界有数の古代湖・琵琶湖畔に本拠を置く企業の社会的使命として、経営に環境を取り込んだ「環境経営」を実践し、地域の皆さまとともに「地球の恵み」である生物多様性の保全、さらには持続可能な社会の実現に努めてまいります。

- 1 役職員全員が生物多様性への理解を深めるとともに、生物多様性の保全およびその持続可能な利用に貢献する活動を展開します。
- 2 琵琶湖をはじめとする自然がもたらす豊かな恵みに感謝し、それらを未来に引き継ぐため、地域の皆さまと手を携え、生物多様性保全への取り組みを拡大、強化してまいります。
- 3 生物多様性の保全と持続可能な利用に貢献する「環境対応型金融商品・サービスの開発、提供」の充実に努め、地域の皆さまとともに「生物多様性と経済の調和」を図ります。

2010年8月制定

### 森づくり サポート活動→P20

「びわこ地球市民の森」には、役職員が2年がかりで“どんぐりの実”から育てた1万本の樹木がたくましく育っています。



「びわこ地球市民の森」には、キジやホオジロ、ムクドリがやってきて、種や小さな虫を食べています。

### 生物多様性格付→P13

地域の皆さまと手を携えて、生物多様性保全の取り組みを進めていくため、独自の評価指標を策定。この指標をきっかけとして、地域で生物多様性への配慮を組み込んだビジネス展開がされることを願っています。

### 「生物多様性EXPO2010」に出展

平成22年3月、環境省主催の生物多様性をテーマとする総合展示会「生物多様性EXPO2010」にブースを出展。金融機関ならではの事例を紹介し、本業を通じた生物多様性保全の取り組みを広く発信しました。



### 学校ビオトープ→P9

子どもたちの「環境学習の実践の場」として、多様な生物との共生空間である「学校ビオトープ」づくりをサポートしています。



### ニゴロブナの放流→P14

琵琶湖の固有種で絶滅危惧種である「ニゴロブナ」は、湖国の食文化「ふなずし」の原料になります。琵琶湖の生態系保全と地産地消、食育につながる滋賀県ならではのロハスな取り組みとして、放流事業に資金を拠出しています。



滋賀の伝統食「ふなずし」

### 琵琶湖いきものイニシアティブに参加

滋賀経済同友会の「企業と生物多様性研究会」に参加しています。生物多様性の恵み豊かな社会を未来に引き継ぐため、生物多様性保全を重要な経営課題と認識し、「琵琶湖いきものイニシアティブ」に賛同、それに則した活動を展開しています。

